

障がいがある子どもの学びの権利を考える・連続学習会
ごあんない

分けない・分けられない 学びの場をめざす、実現する

～人と人を分け隔てるのではない、共に生き合う地域社会をめざして～



今年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（差別解消法）」が成立しました。法は、「差別的取扱い」「合理的配慮の不提供」の禁止を明文化し、障がいの有無によって分け隔てられることのない「共生社会の実現」をめざしています。

私たちの暮らすまち、小中一貫教育特区を推進する品川区では、普通学級からハンディを持つ子どもへ合理的配慮がされず、特別支援教育、特別支援学校への振り分けが見られ、誰もが共に学ぶインクルーシブ教育とはほど遠い状況を生み出しているように思われます。差別解消法は成立しましたが、法を実施し、共に生きる地域社会を実現するためには、なによりまず、障がいがある子どももそうでない子どもも、誰もが共に育ち合い、学び合うインクルーシブ保育・教育の実践が欠かせません。私たちが今できることを、たくさんの皆さんと、障がいの有無にかかわらない子ども、若い人たちと一緒に考えます。

■第1回：2013年10月26日（土）10：00～12：00

ハンディのある子どもと「子どもの権利条約」—インクルーシブ教育のために

*お話のあとは、小笠さんと遠山真学塾が考案した「子どもの権利条約すごろく」で、算数と条約を楽しく学びましょう。

お話：小笠毅さん 遠山真学塾主宰

講師プロフィールは裏面に

■第2回：2013年11月9日（土）14：00～16：00

「障害者差別解消法」を実現する—地域からつくる障がい者差別禁止条例

お話：石毛鏡子さん 社会福祉学者/NPO 法人代表/前衆議院議員

■会場：荏原第四区民集会所 第1講習室（第1回、2回とも）

※東急大井町線荏原駅徒歩1分 TEL：3784-2000

■参加費：1回につき500円

■主催（共催）：品川・共に学び育つ社会をめざす会／品川・生活者ネットワーク

賛同：品川・地域で共に生きる会 ※賛同団体募集中です。

※お申込み、お問合せは TEL：5751-7105 FAX：5751-7106 E-mail：shinagawa@seikatsusha.net

申し込み

Fax. 03-5751-7106

「障がいがある子どもの学びの権利を考える連続学習会」参加希望

○をおつけください

・第1回のみ参加

・第2回のみ参加

・2回とも参加

お名前

ご住所

電話番号

メールアドレス

障がいがある子どもの学びの権利を考える・連続学習会

分けない・分けられない

学びの場をめざす、実現する

～人と人を分け隔てるのではない、共に生き合う地域社会をめざして～

講師プロフィール

小笠 毅さん／おがさ・たけし

1940年徳島県生まれ。遠山真学塾主宰。算数の水道方式（タイル算）を考案した数学者・遠山啓氏の教えを引き継ぎ、真の学び（「教える」とは共に学ぶこと。

「学ぶ」とは心に誠実を刻むこと）の場としてダウン症・自閉症・LD・ADHD等のハンディを持つ子どもの塾を開塾。

スウェーデンの学びの現場を20数回にわたり視察・交流、障がい者の就学や就労についても精通する。

著書に、『ハンドブック 子どもの権利条約』（岩波ジュニア新書）、『就学時健診を考える』『ハンディをもつ若者の進路』（岩波ブックレット）、『ハンディをもつ子どもの教育』（日本評論社）、『学びへの挑戦』『比較障害児学のすすめ』（新評論）など多数。

石毛鉄子さん／いしげ・えいこ

1938年千葉県生まれ。日本女子大学文学部卒業。大学卒業後は、社会福祉団体の代表や飯田女子短期大学教授を務めるかたわら、市民運動に取り組む。専門は社会福祉学。1996年衆議院議員初当選。当選後は、従来の専門分野である社会福祉（高齢者福祉・障がい者福祉等）の問題に加え、第二次世界大戦中の朝鮮半島における従軍慰安婦問題の解決（日本政府による、従軍慰安婦を名乗る女性たちへの全面的公式謝罪の推進等）等に取り組む。通算4期国会議員を務めた後、政界を引退。

『季刊福祉労働』編集長。NPO法人「市民福祉サポートセンター」代表、「市民がつくる政策調査会」代表理事など。

14版 2013年(平成25年)9月22日(日) 毎日新聞・朝刊

「落ちこぼさない」

算数の「水道方式」継ぐ私塾

およそ半世紀前、一人の数学者が新しい算数の指法を生み出した。墨を主台に「数を何か」を教えたい。暗算中心ではなく、筆算で計算を徹底せよというのだ。いまは学校教育に部分的に取り入れられていくが、当時、明治以来の教え方の伝統に真

向から対立するため、異端視され文部省(当時)から認められなかった。それでも世の母親や現場の教師に支持され、全国に広がった。算数の指法が社会的な事件として注目を集めたことは後にも先に他ならない。

この指法「水道方式」を掘り出したのは東京・墨田区にある遠山啓氏の塾「遠山真学塾」だ。半ばに困難を抱える子どもたちを育てるため、約130人が学ぶ。ある週末、公立中学校の普通学級に通うダウン症の女子生徒(14)が、左右が等配写(1)で結ばれた等式のお皿から「軸」をつ

右からも1個とらない、1個ずつ分銅をとって同じ重さにならないよ。」「約り合った」。笑顔で説明を受け、顔がほっと輝いた。入塾は9歳。掛け算の九九は、塾の教材の九九カードを、鞆二階に信じてく

ドで楽しみながら、小学2年の冬にマスターした。九九、合格した。母(48)は娘の弾む声を覚えて、一塾の先生はこの子を、鞆二階に信じてく

主筆の小笠毅さん(左)は、脱サラして塾を開いた。「大の算数嫌い」で算数・数学とは無縁の生活を送っていた娘の人生を変えたのは、先前の遠山との交わりだった。「人間、良い社会があれば変わるんだ。変わって見たら面白かった」今年12月で開塾から30年。高名な数学者も無数嫌いのサラリーマンの人生は、どう交錯したのか。二人には、どんな子どもにも可能性があると、揺るぎない信念があった。

4面につづく

「約り合った!」。てんびんを使って等式の意味を学ぶ中学1年の女子生徒―東京都武蔵野市の遠山真学塾で小出洋平撮影



▲「No!寝たきりデー2013」で発言する石毛鉄子さん(写真左)